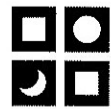


京都府立大学文学部歴史学科  
フィールド調査集報



第5号

2019年3月

## 刊行にあたって

京都府立大学文学部歴史学科では、京都府下を中心にさまざまな地域をフィールドとして、歴史と文化遺産に対する調査研究を実施してきた。京都府域における調査研究の核となるのが本学の地域貢献型特別研究（ACTR）で、平成30年度は、京丹後市と綾部市を中心に、歴史学科教員を代表とする共同研究をおこなった。これ以外にも教員・大学院生・学生によって京都府内外で調査が進められている。こうしたフィールド調査成果の概要を、歴史学科では『フィールド調査集報』として刊行しており、本書はその第5号にあたる。

歴史学科では、文献史学・考古学・地理学・文化情報学・建築史学といった分野から、古文書・建造物・石造物・遺跡・景観といった多様な文化遺産の調査をおこなっている。なかでも本学科の特徴は、例えば寺院の調査であれば文献史学と建築史・考古学というように、分野融合型の調査を積極的に実施している点にある。さらに、博物館等での展示協力や地域住民に対する報告会など、研究成果の活用・社会的還元も積極的に行っている。

また、こうした調査は内部で終わることが多く、成果も個別の教員の手で保管されることが多い。歴史学科では年間の活動成果をまとめることで、調査活動およびその活用事例の公開・提示をおこない、研究・教育の成果の還元を努めている。

本書は4部から構成されている。第Ⅰ部と第Ⅱ部は歴史学科教員を中心として各地で実施している地域の歴史と文化遺産の調査についての報告集で、第Ⅰ部は京都府域、第Ⅱ部は京都府外の諸地域を対象としている。第Ⅲ部と第Ⅳ部は歴史学科の学部生と大学院生を主な対象として実施している課外の研修プログラムの報告集で、第Ⅲ部は文化遺産デザイン研修、第Ⅳ部は文化遺産フィールド研修の報告を収録している。

本書を通じて、歴史学科の活動と地域貢献の一端をご理解いただくことができれば幸いである。

## 例 言

1. 本書は、平成 30 年度に京都府立大学文学部歴史学科の教員と学生がおこなったフィールド調査、およびそれに関連する研究、調査研究成果の活用についての概要報告集である。
2. 第 I 部には、京都府立大学地域貢献型特別研究（ACTR）をはじめ、京都府下において歴史学科教員が中心となって実施したフィールド調査の概要を報告する。なお、複数年度にまたがる研究課題については、平成 29 年度以前の調査成果とあわせて収録している。
3. 第 II 部は、京都府外の地域を対象に、科学研究費補助金の研究課題や受託研究、実習授業などの一環として、歴史学科の教員と学生が中心となって実施したフィールド調査の概要を収録した。
4. 第 III 部には、平成 30 年度に実施した文化遺産デザイン研修の成果を収録した。文化遺産デザイン研修は、歴史や文化遺産に対する知識を活用し、社会に還元するための実践的な方法を学ぶ課外プログラムで、歴史学科の学部 1 ～ 4 回生を対象としている。
5. 第 IV 部には、岐阜県関市において実施した、文化遺産フィールド実習（平成 30 年 8 月）の成果の一部を収録した。文化遺産フィールド研修は、文化遺産の調査、保全、活用などについて、実際に現地を訪れて学習する実習科目で、おもに学部 2 回生を対象としている。
6. 本号の編集は岸泰子が担当した。